

NTT技術史料館かわら版

国立科学博物館の「未来技術遺産」に登録!

平成二十二年十月、NTT技術史料館所蔵の史料三点が、国立科学博物館により世界の移動体通信技術の基盤を作った価値ある技術と認められ「重要科学技術史資料(愛称 未来技術遺産)」に登録されました。

内航船舶無線電話装置

NS-1 呼 JA-A-333



移動体通信の中で最も古い歴史をもつ船舶電話サービス。一九五九年に電電公社の関連会社日本船舶通信機によって始まりました。一九六四年には手動交換方式となり、全国沿岸での通話が可能になりました。本機は、手動交換方式サービス時のもの。

船から陸への「雑な」かけ方

- ・「圏外」話中」の消灯確認
- ・受話器を上げ、A圏・B圏ボタンの選択
- ・船舶台の電話交換手に自局の電話番号と相手先の電話番号を告げる
- ・交換手が相手先にダイヤルし、相手先が応答すると回線を接続

陸から船へかける場合は、あらかじめ船がいる位置を推定し、その海域の船舶台に電話をかける必要があります。今では衛星電話となった船舶電話にもこんな時代があったんですね。

大阪万博の携帯電話 (ワイヤレステレホン)



一九七〇年大阪万博電気通信館での一般展示を目的に開発。約六五万人の来場者が「未来の電話機」を体験しました。この様子がモニターされ、人さし指ではなく親指でボタンを押す傾向や、通話ボタンを押して「ツッ」という発音音がする前にダイヤルし始める人が多いことがわかり、後のPHSや携帯電話の開発に活かされました。海外からの来場者も多かった万博で、国内外へNTTの技術力を強くアピールしました。

雑な 特徴

- ・重さは、約七百グラム。会場での相互通話や国内のダイヤル市外通話が可能
- ・世界の天気予報や万博会場の混雑情報が聞けたり電話計算機能も搭載



当館には、万博で使用された白タイプ(写真)と赤タイプのほか、スケルトンタイプも展示しています。必見です!

第一版

毎週木曜日午後、一般公開実施中!

二階Eコーナーに、歴代の光ファイバー融着接続機 続々登場!

三月、一階と三階をつなぐパラボラ通信体験コーナーがお目見え!

自動車電話

TZ803A



一九七九年自動車電話のサービス開始。当時、機器類はすべて電電公社からのレンタルで、保証金一〇万円のほか、月額基本料三万円、通話料が六秒で十円と非常に高額であったため、乗用車のトランクに立つオプションの車載アンテナはステータスシンボルとなりました。一九八八年に発表されたこのTZ803型は、それまで自動車の中でしか使えなかった自動車電話を、外に運び出しショルダーホンとしての使用が可能になりました。

雑な 構造



肩にかけるといっても、重さは約2.5キロ!これでは、肩が凝ってしまうのではないでしょうかね。

ぜひ実物を見に、お立ち寄りください



情報処理技術遺産
2009年3月 情報処理学会認定
パラメロン計算機
MUSASINO-1B

一九五四年パラメロンが発表されると同時に、電電公社電気通信研究所(現NTT研究所)は並列演算方式による実用計算機の試作に着手しました。

そして、一九五七年に我が国最初のパラメロン計算機MUSASINO-1を完成。パラメロン約五、四〇〇個が使用され、約千五百万円の試作費用を要しました。

MUSASINO-1は、所内の計算サービスに使用されていたものの、手作りの試作機であったためハードウェア障害も多く保守運用に多くの労力を要したことから、一九六〇年まったく同じ論理構成で、電子交換機用に実用化された眼鏡形パラメロンを使用した商用機MUSASINO-1Bを完成させました。

同機は、後に富士通信機製造(現富士通)により、科学計算用中型機ACOM 201として発売されました。

まさに、戦後の日本のコンピューター開発の原点! 迫力が感じられる一品です!